

福祉保健研修交流センター ウィリング横浜
令和4年度 事業報告書

1 施設の管理運営・貸出業務

(1) 施設の目的に沿った管理運営

施設の設置目的である「福祉活動、保健活動等に従事する者その他の市民に対し研修、情報の提供等を行い、並びにこれらの者の交流の場及び機会を提供することにより、福祉活動、保健活動等の推進に必要な人材の養成及び確保を図る」(横浜市福祉保健研修交流センター条例第1条)に沿った運営を行うため、福祉保健活動従事者等へ施設を提供しました。

研修室や付帯設備の貸出にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、机や椅子など人が触れる箇所の消毒や非接触型体温計の貸出などに取り組みました。

ア 目標稼働率

研修室・討議室を合計した貸出状況

	R2年度	R3年度	R4年度
貸出室数(室)	7,493	10,198	12,296
稼働率(%)	38.0	41.6	50.1
平日昼間(9時~17時) 稼働率(%)	47.4	55.4	62.8

第4期指定管理期間の目標稼働率62%及び、平日昼間の目標稼働率73%を下回る結果となりました。要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための利用減少などが考えられます。

※目標稼働率は、研修室501~503・901~904・112・121~127、多目的室、討議室1~7の貸出室数をもとに算出しています。

【参考】

全館貸出状況(研修室・討議室・介護実習室・調理実習室・和室)

	R2年度	R3年度	R4年度
貸出室数(室)	8,710	12,028	14,352
稼働率(%)	34.1	37.6	45.0

イ 施設利用者数

	R2年度	R3年度	R4年度
利用者数(人)	52,167	83,232	107,808
福祉保健従事者利用	33,696	56,605	74,707
一般利用	14,437	21,761	27,915
主催研修等	4,034	4,866	5,186

ウ 周知・広報

施設案内のリーフレットについては、横浜市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）会員への配布、また、近隣公共施設に配架依頼を行いました。そのほか、研修室や介護実習室の写真を掲載したチラシを作成して、福祉保健関係団体や主催研修受講者へ配布しました。

さらに、ホームページを更新し、施設トップページのレイアウト変更、貸室については資料ダウンロードページの新設や貸室内の写真追加などを行い、ご利用者が使いやすいサイトになるよう工夫しました。

(2) 建物・施設の管理

利用者が施設を快適・安全・安心して利用できるよう、施設の維持・保全・管理に努めました。

ア 建物・設備機器修繕業務

建物や設備機器の修繕を15件行いました。

臨時休館日や貸室の利用のない時間帯に設備点検等を実施し、設備の保守及び小破修繕に努めました。小破修繕では、天井走行式リフトバッテリーやブラインド、誘導灯の交換等を実施しました。

なお、第4期指定管理期間で実施する修繕・備品更新計画に沿った修繕として、10階研修室・廊下のフロアカーペットや9階研修室・討議室の壁紙の貼替、10階空調機器等修繕工事等に取り組みました。

さらに、研修環境向上に必要なインターネット設備・機器の整備として、インターネット基盤更新等を行いました。

イ 清掃・設営業務

(ア) 日常清掃

良好な環境衛生や美観の維持を心がけ、施設として安全かつ快適な空間を保つために日常清掃を行いました。また、感染症対策として、机や椅子、マイク、鍵などの消毒を徹底しました。

(イ) 定期清掃

日常清掃では実施が困難な箇所の清掃をするため、年4回定期清掃を行いました。

(ウ) 研修室等の設営

利用者から机・椅子等の配置や備品の要望を事前に伺い、当日の利用が円滑かつ利用満足度が上がるよう準備しました。

ウ 警備関係業務

職員による1日2回の定期巡回の他、警備員による警備は年中無休・24時間体制とし、ゆめおおおか管理組合と連携して施設の防犯、保安管理に努めました。また、防犯カメラにより、防犯上重要箇所の確認を行いました。

(3) 利用者ニーズの把握、苦情対応

ア ご意見箱の設置

館内に4か所設置しているご意見箱にて6件（3年度：4件）のご意見をいただき、回答を館内に掲示しています。また、寄せられた苦情は0件（3年度：0件）でした。

※ 主なご意見と回答

ご意見（要約）	回答（要約）
【館内設備への要望】 （交流スペース）飲料の自販機ですが、ICカードが使える自販機にしてください。	当館の5階と12階に設置してあります自動販売機は現金のみの取り扱いとなっております。いただいたご意見は今後の施設運営の参考とさせていただきます。
【館内設備への要望】 （研修室）オンライン研修のためにインターネットが使える場所がほしい。	当館は大小30の貸室をご用意しております。貸室では無料で有線LANによるインターネット接続が可能となっております。福祉保健従事者を対象とした施設ですが、一般の方もご利用いただけます。

イ 窓口満足度調査と利用者アンケート

来館者に対する窓口満足度調査（11月）を行い、220件の回答をいただき平均3.8点（4点満点）となりました。いただいたご意見等をふまえ、研修などを行い引き続き利用者本位の接遇に努めます。

項目	平均値
窓口対応の全体的な印象はいかがですか	3.8
職員に気軽に不満や要望を伝えられる雰囲気がありますか	3.8
窓口は感染対策がとられていましたか	3.9
窓口はプライバシーに配慮され話しやすく工夫されてましたか	3.8
職員の説明はわかりやすかったですか	3.8
職員はあなたの話を十分に伺い、誠実な対応をしていますか	3.8
職員はお待たせすることなくすぐに対応しましたか	3.9
職員の言葉遣いはいかがですか	3.8
職員の身だしなみはいかがですか	3.9
職員のあいさつはいかがですか	3.8
計	3.8

（4点満点）

あわせて、研修室の利用者アンケートを行い、148件の回答をいただき、研修環境向上に必要なインターネット設備・機器の整備にあたり参考としました。

項目	件数
インターネット回線を利用したことがある。	54
利用目的（複数回答） ※主な項目	
研修の同時配信	22
動画視聴	15
研修のオンライン受講	12
インターネット回線を利用したことがない。	94
今後、利用する予定がある。	37
今後、利用する予定がない。	42
無回答	15

(4) 職員体制・育成

施設運営や事業運営に支障がないよう、職員配置計画通りに配置することができました。

職員育成の取組としては、本会「人材育成計画」に基づき、接遇研修やハラスメント研修等を受講して資質向上を図りました。なお、コンプライアンス研修や人権研修については、職員会議で受講者による研修報告を行い、職員全体の意識啓発に努めました。

2 人材育成事業

(1) 主催研修

福祉保健従事者及び民生委員・児童委員等の活動者を対象とする、公共性の高い研修機関として65件の研修を実施しました。研修コンセプトの「組織力の向上」と「地域福祉の推進」を意識し、「地域力を高める」の研修では地域でのネットワーク作りができる人材の育成を目的とした研修を実施しました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、消毒の徹底やゆとりのある会場の確保のほか、グループワークから講義形式への切り替えや、一部の研修については、動画配信や双方向のweb研修を取り入れるなど、対面や接触を避けた研修方法の工夫により、安心して研修を受講できる環境を検討し提供しました。

研修の企画にあたっては、研修の受講者アンケート、施設・事業者へのヒアリング、横浜市社会福祉協議会他部署のアンケート等を検討し受講ニーズの把握に努めました。研修受講者アンケートの希望から、R4年度は「家族支援」「パーソナリティ障害」「初任者の記録入門」「コミュニケーション研修」などを採用し、新規研修として実施しました。

全体の応募率は約148.2%と非常に高く、感染症対策を徹底した上で定員を超えた受講決定を行った結果、計画より多くの受講者数の受け入れに繋がりました。

引き続き開催する研修についても、アンケート等の意見を参考に内容等を改善し実施しました。その結果、「(5) 受講者アンケート結果」にあるとおり、受講者からは96.2%の総合評価をいただきました。

研修事業の年次推移（指定管理外事業を除いた実績を表示）

	R2年度	R3年度	R4年度
研修件数（件）	54	68	65
研修コース数（コース）	58	71	67
研修受講者数（人）	2,268	3,809	4,171
研修開催日数（日）	74	86	81

ア 組織力を高める：30件

組織人、職業人として、各々の職員が職務階層別に求められる役割行動を理解し、自らのキャリアデザインを描くこと、そして、組織活動を円滑かつ効果的に進めるための知識や技術の修得を目的として実施しました。

	研 修 名	合計日数 (日)	合計定員 (人)	受講者数 (人)
1	[福祉職員キャリアパス障害研修課程] 初任者研修～新卒者編～	3	28	22

2	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 初任者研修～社会人経験者編～ 1コース	2	24	23
3	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 初任者研修～社会人経験者編～ 2コース	2	28	15
4	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 中堅職員研修	2	28	46
5	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 チームリーダー研修 1コース	2	28	23
6	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 チームリーダー研修 2コース	2	28	34
7	〔福祉職員キャリアパス障害研修課程〕 管理職員研修	2	28	25
8	新卒2, 3年目 フォローアップ研修	1	32	36
9	問題解決力向上研修 ～より良い職場作りを目指して～	1	40	45
10	後輩育成担当者のためのOJT研修	2	36	28
11	チームリーダーのための人材育成研修	1	36	31
12	新任管理職のための運営基礎 ～信頼される管理職であるために～	1	28	54
13	トップセミナー 福祉施設で ICT を活かすための導入の仕方【WEB 対応】	1	48	40
14	初任者のためのこころのリフレッシュ研修 ～ストレスケアの基本を学ぶ～【出張研修】	1	36	29
15	援助職のためのこころの守り方 ～レジリエンスでしなやかに働こう～	1	32	43
16	チームリーダー・中堅職員のためのセルフマネジメント研修	1	36	45
17	管理者のためのメンタルヘルス対策研修	1	36	26
18	基礎から学ぶリスクマネジメント研修	1	36	42
19	中堅職員のためのリスクマネジメント研修	1	36	47
20	組織で取り組むリスクマネジメント研修 ～BCPの構築・運用を進めるためのコツを学ぶ～	1	36	39
21	利用者・家族からの暴力・ハラスメント対策 ～支援者が安心して働くために～	1	40	47
22	高齢者虐待の防止について	1	40	40
23	ビジネスマナーの基本 ～福祉職場における接遇～	1	40	42

24	初任者のための記録入門 ～大切なのは観察力～	1	32	45
25	組織を守る記録の書き方研修	1	36	39
26	サービスレベルアップのための記録の書き方・読み方研修	1	40	40
27	労務管理研修	2	42	42
28	今こそ聞きたい！SDG s の基礎【出張研修】	1	36	23
29	社会福祉法人会計基準対応研修 基礎編	2	35	47
30	社会福祉法人会計基準対応研修 応用編	2	35	31
31	広報力向上研修 ～施設の魅力を情報発信するために～	1	36	34
32	研修のススメ！人が育つ職場づくりを目指して	1	50	35
計 30 件 32コース		44	1,122	1,158

イ 専門力を高める：23 件

福祉保健活動従事者として求められる社会福祉実践の原則や、自らのスキルアップを目的とした知識、技術の修得を目的として実施しました。

	研 修 名	合計日数 (日)	合計定員 (人)	受講者数 (人)
1	対人援助職のためのコミュニケーション研修	1	36	38
2	利用者中心の支援・サービスとは ～専門職の姿勢と支援の基本～	1	42	46
3	対人援助基礎研修～自己理解・他者理解～	1	40	68
4	新たな発見を生む事例検討の進め方 ～リフレクティング・プロセスを用いて～【カレッジ連携】	1	36	34
5	ナラティブ・ソーシャルワーク ～「”支援”しない支援」の方法とは～	1	36	46
6	家族支援を考える ～精神疾患のある家族を含む世帯支援～	1	32	43
7	スーパービジョンの基礎技術 ～組織マネジメントと専門職の人材育成～	2	36	30
8	プレゼンテーション研修【出張研修】	1	30	29
9	プレゼンテーション研修	1	42	39

10	ファシリテーション研修【出張研修】	1	36	35
11	障害者支援基礎研修 ～利用者本人の「思い」に寄り添うために～	1	36	44
12	生活支援の現場から知る 大人の発達障害	1	40	63
13	パーソナリティ障害の理解と接し方	1	40	63
14	子どもの感染症講座 ～職員と家族の安心のために～【カレッジ連携】	1	50	29
15	子ども虐待の防止に向けて～保育園に期待される関わり～	1	30	27
16	気になる子どもの理解と対応・保護者への関わり方	1	30	56
17	制度を学ぶ研修～生活保護制度とは～【WEB 対応】	1	32	87
18	医療機関との連携の進め方【カレッジ連携】	1	30	39
19	ターミナルケア研修	1	36	44
20	福祉職が知っておきたい高齢者の医療基礎知識	1	30	57
21	薬を知って上手に付き合おう【カレッジ連携】	1	36	67
22	認知症の医療知識と最新情報	1	50	61
23	口から食べることをチームで支援しよう！【カレッジ連携】	1	55	39
計 23 件 23コース		24	861	1,084

ウ 地域力を高める：6 件

地域貢献の理解（専門知識・技術の地域還元等）を深め、地域協働について主体的に気づき・考え・行動することを目的として研修を実施しました。

	研 修 名	合計日数 (日)	合計定員 (人)	受講者数 (人)
1	どうなる？福祉避難所 ～地域の中での災害時の社会福祉施設の役割～	1	36	46
2	社会福祉施設に求められる地域支援とは ～地域共生社会における施設の役割～	1	50	33
3	広げよう！個別支援から生まれるつながりの輪～利用者の生活支援を地域や多機関と共に考える～【カレッジ連携】	1	36	31
4	認知症の人を支える社会資源 ～全国の認知症カフェの事例から学ぶ～	1	36	41

5	高次脳機能障害を理解する	1	36	64
6	地域福祉つなぎ隊研修	2	45	37
計 6 件 6コース		7	239	252

エ 横浜市民生委員児童委員研修：6件

民生委員児童委員、主任児童委員の方を対象とした、各種研修を実施しました。

研 修 名		合計日数 (日)	合計定員 (人)	受講者数 (人)
1	区会長・副会長研修【WEB対応】	1	57	54
2	地区会長研修【WEB対応】	1	263	196
3	主任児童委員研修【WEB対応】	1	499	258
4	リーダー養成研修【WEB対応】	1	—	165
5	新任民生委員児童委員研修【WEB対応】	1	1,093	913
6	新任地区会長研修【WEB対応】	1	103	91
計 6 件 6コース		6	2,015	1,677

(2) 研修支援

ア 横浜市内の福祉・保健事業者の職場内における職員研修の実施方法や講師に関する相談など、研修・人材育成に関する相談に対応しました。

・相談受付件数 30件 (R3年度：13件)

イ 施設・事業所内における研修計画の重要性や、外部研修と内部研修の活用方法について取り上げた研修、「研修のススメ！～人が育つ職場づくりを目指して～」を事業所支援の一環として、無料で実施しました。

ウ 研修相談や施設訪問等の状況から、職場での人材育成定着のためのヒントをまとめたリーフレット『職場研修のススメ』を作成。市内事業所へ印刷物の配布と、HPを活用し、職場研修に使いやすいフォーマットと共に掲載しました。

(3) ハマ・キャリ・ネット

福祉保健研修情報サイト「ハマ・キャリ・ネット」にて、インターネット上で研修案内を公開し、WEB 申込受付を実施しました。LINE やメールマガジンでも計画的に広報を行ったことで WEB 申込への理解が浸透し、WEB 受講に対する新規登録の需要は落ち着き WEB 申込は増加しました。

	R2実績	R3実績	R4実績
ハマ・キャリ・ネット閲覧数	12,530件	19,353件	18,974件
ハマ・キャリ・ネット新規会員登録数	39件	194件	135件
WEB申込者数	140人	512人	716人

(4) 研修委員会の開催

研修事業をより円滑に進めるために、外部有識者を中心とする研修委員会を設置し、研修事業の方針、企画、進行管理等について協議しました。その結果、令和5年度の新規研修企画立案に繋がりました。委員会は3回とも会場とオンラインの併用で準備しました。

〔委員構成：学識経験者2人、よこはま福祉・保健カレッジ関係機関2人、行政関係者1人、ウィリング横浜1人 計6人〕

<第1回>

開催日：令和4年7月11日（金）

内 容：委員の交代について

令和3年度ウィリング横浜事業報告（案）について

令和4年度ウィリング横浜研修等事業の年間計画について

研修支援事業『研修のてびき』作成について

研修委員会の日程について

出席者：委員6人

<第2回>

開催日：令和4年10月27日（木）

内 容：令和4年度 研修事業中間振り返りについて

令和4年度 各事業の進捗状況について

令和5年度 研修計画について

『研修の手引き』について

出席者：委員6人

<第3回>

開催日：令和5年1月23日（木）

内 容：令和4年度 事業進捗状況について

令和5年度 研修計画について

出席者：委員5人

(5) 受講者アンケート結果

58 研修を対象に研修受講後にアンケート行い、2,363人から回答がありました。4段階で評価項目を設定し、受講者からの「4」と「3」の評価を併せた結果、会場受講では96.9%の総合評価をいただきました。今年度より、必要に応じて資料をカラー刷りにするなど、より分かりやすい資料づくりを工夫しました。なお、オンラインにおいてはアンケート回収率を高めるため、回答用のWEBフォームを事前にメールでご案内したり、研修終了後に、画面に二次元コードを表示したり、チャットにURLを流すなど、直接入力がしやすいよう工夫しました。

・受講者アンケート

項目	会場及びオンライン受講者合計	会場受講者	オンライン受講者
研修内容の理解度 (%)	97.7	98.2	92.3
講師の指導方法の適切さ (%)	97.0	97.6	91.8

レジュメや資料の分かりやすさ (%)	95.9	96.6	88.7
研修内容の満足度 (%)	95.3	96.0	88.6
今後の業務への参考度 (%)	95.3	96.2	87.2
総合評価 (%)	96.2	96.9	89.7
アンケート回収率 (%)	96.1	97.0	88.7

(6) 福祉施設等ヒアリング

以下を目的として市内の福祉施設等に出向きヒアリングを実施しました。

- ・ウィリング横浜主催研修へのご意見、ご要望の収集及び周知
- ・施設内外の研修受講実績等の把握
- ・人材定着の施策、工夫についての情報収集

訪問調査数：全6件（障害関係2件、地域ケアプラザ2件、保育園1件、病院1件）
 研修への意見として、「WEB研修ではなく、対面や他施設と交流する演習等ができること」「初心者、中堅職員、チームリーダー、管理職員などの階層別の分かりやすさ」「WEB申込の活用のしやすさ」等の期待が寄せられました。

3 よこはま福祉・保健カレッジ事業

「よこはま福祉・保健カレッジ事業に関する覚書」を横浜市内の大学・専門学校・職能団体・NPO法人等の参画機関と締結しました。参画機関間における福祉保健分野の人材確保・定着・育成の情報交換や相互協力に向けた連絡調整等を目的として、全参画機関によって構成する連絡会議を設置しています。

参画機関数：20団体（学校関係機関7団体、専門機関5団体、職能団体5団体、NPO団体2団体、研修機関1団体）

(1) よこはま福祉・保健カレッジ認定講座の実施

参画機関が実施する講座のうち、福祉活動・保健活動等の推進に必要な人材の育成及び確保に繋がる内容のものについては、よこはま福祉・保健カレッジ認定講座として承認しました。さらに、チラシの配布や、「ハマ・キャリ・ネット」に掲載し、周知広報についても連携を行いました。各機関の研修実施はコロナ前の状況に戻りつつあります。

認定講座：207講座（R4受付分） 受講者 4,998人（R4開催分）

(2) よこはま福祉・保健カレッジ連携講座の実施

福祉保健活動従事者を主な対象としてカレッジ参画機関の専門性を生かした研修を企画し、講師の派遣等を受けることにより、主催研修としてカレッジ連携講座を実施しました。

連携講座：6講座 受講者239人

(3) よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議の開催

参画機関の相互連携・協力実現に向けて、よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議を開催しました。令和4年度は、会場とオンラインを併用し、2回開催しました。

第1回連絡会議

開催日：令和4年6月10日（金）

内容：（1）よこはま福祉・保健カレッジ連絡会議 代表・副代表の選出について
 （2）令和3年度よこはま福祉・保健カレッジ事業報告について

(3) 各機関 令和3年度事業および令和4年度事業計画について

第2回連絡会議

開催日：令和5年3月15日（水）

内 容：(1) 【情報交換】 令和4年度の事業実施報告及び次年度事業について
(2) よこはま福祉・保健カレッジ事業に関する諸手続きについて

(4) よこはま福祉・保健カレッジとウィリング横浜の事業連携

参画機関と連携して、人材確保事業として就職支援や定着支援のための講座等を実施しました。

・介護労働安定センター「就職説明会」（詳細は 5(2)ア 就職説明会の実施 を参照）

4 情報収集・提供事業

社会福祉・保健関連分野の図書・資料等を幅広く収集し、整備・保管しました。貸出や館内閲覧等の方法で提供するほか、インターネットで図書の検索ができるシステムの運用を行い、市民に利用しやすい情報提供を行いました。

利用者が目的の本を探しやすいよう蔵書分類の見直しを行い、利便性向上を図りました。

主催研修、資格関連研修において、研修テーマに関連する蔵書リストや新着図書案内を配付し、蔵書の紹介を行いました。

また、初めて福祉にかかわる方にも読みやすい、福祉をテーマとした漫画も収集し、貸出件数が増加しました。

企画展では、「レジリエンス・ハラスメント」「発達障害って何だろう？」「最期の日々に寄りそう人へ」の各テーマに関連した本を展示しました。「レジリエンス・ハラスメント」では、共催した「こころの相談室」スタッフのおすすめ本を展示しました。

利用促進のため、研修情報を発信するメールマガジンや LINE、HP、YCAN（横浜市職員専用インターネット掲示板）に新着図書を紹介するとともに、「福祉よこはま」（横浜市社協の広報紙）に広告を掲載しました。

手指消毒液の設置、調査研究席の消毒など、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に努めました。

(1) 新規受入数および所蔵数の状況

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	所蔵数 (R4年度末時点)
図書・資料（点）	567	571	634	23,417
逐次刊行物（点）	791	759	728	24,351
視聴覚資料（点）	18	13	10	539
合 計	1,376	1,343	1,372	48,307

(2) 利用状況

ア 利用者数・館外貸出数

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
閲覧者数（人）	4,695	7,460	8,268
貸出数（件）	4,035	7,509	7,965

イ 新規登録者数

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
新規登録者数（人）	124	262	275

※ R4 年度末総登録者数 13,474 人

(3) 企画展

	期間	テーマ	連携講座等	閲覧者数 (人)
1	7月20日～8月9日	レジリエンス・ハラスメント	共催：こころの相談室	150
2	11月10日～11月30日	発達障害って何だろう？ ～生きづらさへのサポート～		201
3	1月29日～2月18日	最期の日々に寄りそう人へ ～それぞれの看取り～		227

5 人材確保・定着支援事業

福祉保健分野における恒常的な人材不足を踏まえ、福祉保健職場の理解促進を目的に福祉の仕事に関する情報提供や就職説明会等の各種事業を開催しました。

また、福祉の仕事に関する理解促進や、施設・事業所の人材確保支援を図る事業も実施しました。

(1) 福祉保健分野に関する情報提供の実施

福祉に関する人々（福祉保健事業従事者、ウィリング横浜利用者、福祉に関心がある市民など）が交流を深めるきっかけの場、福祉に関する各種情報を提供する場として 12 階交流スペース「ウェルじゃん」を運営しました。

デジタルサイネージによる福祉の仕事に関わる啓発動画コーナーを設置し、かながわ福祉人材センターの啓発動画や施設・事業所紹介動画などの情報を発信しました。

(2) 福祉の仕事への理解の促進

よこはま福祉・保健カレッジ参画機関が行う就労支援への協力として、就職説明会を実施し、福祉の仕事への理解促進を図るとともに施設・事業所のイメージアップのための発信を支援しました。

また、市内の福祉・保健関係の事業所に対し、福祉人材確保を支援するセミナーを開催しました。

新たに、ホームページにおいて、福祉のシゴトに関する動画配信を開始しました。

各区社会福祉協議会が実施する就職相談会については、コロナ禍を経て、実施を再開する区社協に対し、就職相談会のチラシ等の情報提供を行いました。

ア 就職説明会の実施

介護労働講習受講者を対象に、就職説明会を行いました。

横浜市内の施設・事業所が作成した動画を紹介したほか、精神障害、知的障害、身体障害の各施設から施設長をお招きし、障害分野における施設の様子や仕事内容をお話しいただくなど、福祉現場の様子を伝える機会を設けました。

開催日：令和4年8月29日（月） 参加者：43 人

動画による施設・事業所紹介：10 法人

イ 人材確保支援セミナーの実施

市内社会福祉施設・事業所の管理者・採用担当者等を対象として、セミナーを実施しました。本セミナーは、会場受講と同時配信を併用して実施しました。

日 程：令和4年11月25日（金）

研修名：人材確保支援セミナー「みんなで取り組む“採用”」（共催：横浜市社会福祉協議会経営者連絡会議、横浜市福祉事業経営者会）

講 師：坂本 宗庸 氏

（株式会社リクルート HELPMAN JAPAN グループ シニアエバンジェリスト）

参加者数：会場受講 14 人 同時配信 35 人

ウ ホームページにおける人材募集動画の配信

「福祉のシゴト、どんなトコ？～動画で知ろう、福祉のシゴト～」と題し、YouTube 公式チャンネルを活用し、市内福祉施設の人材募集動画を配信しました。

参加法人 10 法人

URL：<https://www.yokohamashakyo.jp/willing/work/fukushi/>

6 調査研究事業

横浜市における福祉保健事業向上のため、調査研究を行う団体を募集し、研修情報や場を提供する等、調査研究活動の支援を行いました。

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
登録団体数（団体）	1	1	1

7 ウィリング横浜の特色を生かした独自性のある事業

（1）こころの相談室の運営

福祉保健関係者の抱える問題の解決や心理的負担の軽減を図り、福祉保健関係者がより充実した活動ができるようになることを目的として、カウンセラーによる相談事業を実施しました。相談内容は、人間関係や心の疲れに関する相談が多くみられました。また、利用促進を目的として、LINE やメールマガジンでの配信や、市内福祉施設へのリーフレット配布、「福祉よこはま」（横浜市社協の広報紙）に広告を掲載しました。

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
開設日数（日）	121	145	146
利用件数（件）	124	139	126

（2）交流スペース「ウェルじゃん」の運営

12 階交流スペース「ウェルじゃん」において、神奈川福祉人材センターの案内掲示や施設事業所の人材募集動画の配信、他機関の研修情報等、福祉保健分野に関する情報提供を行いました。

開館時間中は自由に開放し、飲み物の自動販売機を設置し、交流の場として提供しました。

令和4年度 福祉保健研修交流センターウィリング横浜 指定管理事業収支決算書

収入の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明 (「※」: 予算現額と決算額の差異の主な理由)
横浜市指定管理料	168,045,000	8,990,366	177,035,366	177,035,366	0	ICTを活用した相談支援等促進のための運営支援
横浜市による運営支援	0	4,406,000	4,406,000	4,406,000	0	物価高騰の影響を踏まえた横浜市による運営支援
事業収入	60,648,000	0	60,648,000	63,341,622	△ 2,693,622	※研修室等利用料収入が見込みより上回ったため
参加費収入	8,500,000	0	8,500,000	8,148,500	351,500	研修参加費
利用料収入	52,100,000	0	52,100,000	55,133,050	△ 3,033,050	研修室等利用料
手数料収入	48,000	0	48,000	60,072	△ 12,072	
負担金収入	856,000	0	856,000	609,490	246,510	
利用料等負担金収入	456,000	0	456,000	369,910	86,090	コピー機利用料
負担金収入	400,000	0	400,000	239,580	160,420	研修テキスト代等
雑収入	2,687,000	0	2,687,000	1,567,322	1,119,678	自動販売機販売手数料等 ※自動販売機販売手数料が見込みより下回ったため
法人会計より負担	10,415,000	0	10,415,000	0	10,415,000	※事業収入の増及び市運営支援等により法人負担が不要となったため
収入計	242,651,000	13,396,366	256,047,366	246,959,800	9,087,566	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明 (「※」: 予算現額と決算額の差異の主な理由)
人件費支出	130,124,000	0	130,124,000	119,175,320	10,948,680	※職員給料支出が見込みより下回ったため
職員給料支出	67,440,000	0	67,440,000	57,685,314	9,754,686	
職員俸給	54,177,000	0	54,177,000	50,709,200	3,467,800	
職員諸手当	10,817,000	0	10,817,000	5,218,604	5,598,396	
通勤手当	2,446,000	0	2,446,000	1,757,510	688,490	
職員賞与支出	15,225,000	0	15,225,000	14,637,474	587,526	
非常勤職員給与支出	30,534,000	0	30,534,000	30,641,726	△ 107,726	
法定福利費支出	16,925,000	0	16,925,000	16,210,806	714,194	
事業費支出	104,607,000	13,396,366	118,003,366	116,727,630	1,275,736	※音響設備更新経費が固定資産取得となったため
水道光熱費支出	20,000,000	4,406,000	24,406,000	29,793,767	△ 5,387,767	
消耗品費支出	3,178,000	0	3,178,000	3,184,131	△ 6,131	事務用品等
器具什器費支出	2,000,000	0	2,000,000	1,971,510	28,490	パソコン、ホワイトボード等
保険料支出	95,000	0	95,000	92,590	2,410	施設賠償保険等
賃借料支出	1,698,000	0	1,698,000	1,649,227	48,773	図書管理システム用機器、AEDリース等
諸謝金費支出	5,094,000	0	5,094,000	4,337,800	756,200	講師謝金等
旅費交通費支出	158,000	0	158,000	141,283	16,717	職員業務出張旅費
印刷製本費支出	880,000	0	880,000	945,523	△ 65,523	研修資料印刷費等
修繕費支出	2,820,000	0	2,820,000	3,491,730	△ 671,730	館内設備修理
通信運搬費支出	1,673,000	0	1,673,000	1,390,730	282,270	研修受講通知等送付、電話料金等
会議費支出	50,000	0	50,000	60,000	△ 10,000	費用弁償等
広報費支出	146,000	0	146,000	157,000	△ 11,000	賞会議室広告掲載費等
業務委託費支出	50,303,000	8,990,366	59,293,366	54,622,594	4,670,772	施設保守管理費、インターネット環境整備費 等
手数料支出	989,000	0	989,000	1,305,851	△ 316,851	振込手数料等
租税公課支出	13,368,000	0	13,368,000	11,828,321	1,539,679	消費税等
蔵書購入費支出	2,155,000	0	2,155,000	1,755,573	399,427	情報資料室図書等
事務費支出	1,725,000	0	1,725,000	1,522,637	202,363	
福利厚生費支出(事務費)	312,000	0	312,000	316,075	△ 4,075	健康診断費用等
研修研究費支出(事務費)	107,000	0	107,000	15,040	91,960	職員派遣研修費
事務消耗品費支出(事務費)	288,000	0	288,000	287,178	822	クラウドサービス利用料
通信運搬費支出(事務費)	404,000	0	404,000	197,139	206,861	プロバイダ経費
広報費支出(事務費)	0	0	0	92,400	△ 92,400	求人広告掲載費
業務委託費支出(事務費)	6,000	0	6,000	6,000	0	
賃借料支出(事務費)	470,000	0	470,000	529,920	△ 59,920	ネットワークセキュリティ経費
保守料支出(事務費)	128,000	0	128,000	68,885	59,115	勤怠管理システム保守料等
諸会費支出(事務費)	10,000	0	10,000	10,000	0	
負担金支出	7,000	0	7,000	7,000	0	
固定資産取得支出	0	0	0	1,119,250	△ 1,119,250	音響設備パソコンが固定資産取得となったため
法人会計へ	6,188,000	0	6,188,000	8,407,963	△ 2,219,963	退職積立金、本部経理事務等負担金、IP無線負担金、繰越金 ※退職積立金増や繰越金が生じたため
支出計	242,651,000	13,396,366	256,047,366	246,959,800	9,087,566	